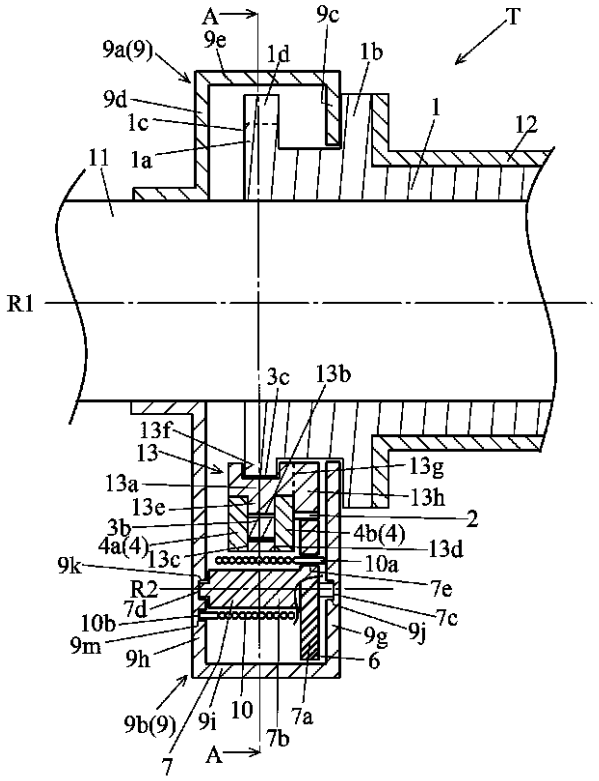
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成23年1月13日(2011.1.13)

【公開番号】特開2009-133699(P2009-133699A)
【公開日】平成21年6月18日(2009.6.18)
【年通号数】公開・登録公報2009-024
【出願番号】特願2007-309606(P2007-309606)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｂ　7/30　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｂ　7/30　Ｈ

【手続補正書】
【提出日】平成22年11月18日(2010.11.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２６】
一方、下側ケース９ｂは、所定間隔を隔てて対向配置される一対の略矩形状からなる第１、第２の平板部９ｇ、９ｈと、ハンドルバー１１側となる各平板部９ｇ、９ｈの上部側開口を除いた他の開口である下部側開口及び一対の側部側開口を塞ぐ略「コ」字形状の壁部９ｉとから主に構成されている。なお、上側ケース９ａ、下側ケース９ｂは、非磁性金属材料からなる図示しないボルト等の適宜固定手段によって固定される。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３３】
本実施形態では、渦巻きばね１０によって、被検出体１３を回動始点まで復帰するものであり、被検出体１３を構成する樹脂フレーム１３ａのフランジ部１３ｅがスロットルグリップ１のフランジ１ｄに当接して、スロットルグリップ１を回動始点方向に復帰する。
被検出体１３は、フランジ１３ｂが被検出体ストッパ１７に当接して、復帰方向への回動が停止する。この時、スロットルグリップ１のフランジ１ｄはスロットルグリップストッパ１６に当接せず、スロットルグリップ１は、スロットルグリップストッパ１６と、被検出体ストッパ１７に当接した被検出体１３との間で、被検出体１３が回動しないために被検出体１３の回動に伴う信号が出力されない状態で、回動可能となる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図１
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図１】


A
9c
T
9a(9)
9e
1d
1b
9d
1
1c
12
11
1a
R1
3c
13b
13f
13
13g
13a
13h
13e
2
3b
4b(4)
4a(4)
13d
13c
10a
9k
7e
R2
7d
7c
10b
9g
9j
9m
9h
6
9b(9)
9i
10
7a
7b
A
7